

2. 事業の概要と成果	
(1) 上位目標	尿尿分離型環境衛生式トイレの導入により衛生改善と収入創出を促す持続可能な農業を確立し、総合的村落開発を実現する。
(2) 事業内容	中間報告対象期間：2014年11月13日～2015年4月30日 (ア) 農業生産性の向上のためのエコサントイレの建設 <u>1) エコサントイレのビルダー養成</u> 日本から建築専門家（江崎貴洋氏）を招聘し、エコサンビルダー養成研修を実施した。研修を受けた32名のうち十分なエコサントイレ建設技術を習得した16名をエコサントイレビルダーとして認定した。 <u>2) エコサントイレ建設</u> エコサントイレを3つの小学校及び1つの中学校に合計36基建設した。当初、公共施設に35基建設予定であったが、学校のトイレ不足で需要が高まり、予定建設基数よりも多くなっている。建設後には使用モニタリングを行い、各施設で適切に使用されていることを確認した。 <u>3) デモンストレーションファームの設置</u> エコサン肥料や尿の施肥効果を周知するためのデモファームを事業地内の大通り沿いに5箇所設置した。事業地内の農家がエコサン肥料を施しメイズの播種を行うなど管理を行っている。 (イ) 安全な水へのアクセス確保のための水道システムの構築 <u>1) 現状の確認</u> 既存の井戸管理委員会と話し合いをし、現状の井戸管理システムの問題点の確認、及び、新しい井戸管理システムの策定を行った。また、井戸建設会社の Davis&Shritliff 社と現場視察を行い、設備の点検、及び、技術的な問題点の確認を実施した。 <u>2) 計画表の作成</u> 上記の情報をもとに、持続的な井戸管理システムを再設計するための計画表を作成した。尚、既存の井戸委員会との話し合いの中で、既存の井戸の問題が技術的なものだけではなく井戸管理委員会の管理能力不足というソフト面を含むことが浮き彫りとなったため、委員会の再編成、管理能力の向上も同時に進める必要がある。 (ウ) 燃料資源の維持と利用量の削減のための高効率かまど建設 <u>1) 薪炭材苗木の配布及び植林</u> Kakamega Forest Research, Kakamega Forest Service と連携し、薪炭材苗木の植林品種を選定した。苗木を配布する世帯を登録し、引換えクーポンを約400世帯に配布した。 <u>2) 改良かまどのビルダー養成</u> 日本から建築専門家（江崎貴洋氏）を招聘し、改良かまど養成研修を実

施した。研修を受けた32名のうち十分な改良かまど建設技術を習得した6名を改良かまどビルダーとして認定した。

3) 改良かまど建設

燃料効率の高い改良かまどを学校、教会などの公共施設に4基建設した。使用モニタリングを行い、各施設で改良かまどが適切に使用されていることを確認した。

4) かまど委員会の設立

各家庭への改良かまどの普及を目的とした「改良かまど委員会」(男性10名、女性16名)を設立した。本項目は女性の地位向上と深く関わるため、本委員会は女性の地位向上委員会メンバー及びビルダーから構成されている。

(エ) 収入の向上に向けた農畜産物の生産と加工販売

1) 農畜産業普及委員会の設立

収入創出、加工品の開発及び販売を目的とした「農畜産業普及委員会」(男性12名、女性8名)を設立した。

2) ローカルマーケットのニーズ調査

カカメガ郡の農業局員や団体などを通して、農畜産物及び加工品などのニーズ調査を行った。近隣のキスム郡ではモリンガの種や加工品などを海外にも輸出しており、需要が高いことから、モリンガ関連商品の生産、及び、キスムへの販売を検討することとなった。

(オ) 女性の地位向上に向けたコミュニティ活動

1) 女性の地位向上委員会の設立

女性のエンパワーメントを目的とした「女性の地位向上委員会」(男性4名、女性16名)を設立した。委員会メンバーは各エリアから2名が選出され、女性16名、男性4名で構成されている。

2) 女性の地位向上委員会を対象としたワークショップの実施

女性のエンパワーメントを専門とする地元の講師を招き、委員会メンバーを対象にワークショップを実施した。ワークショップは、委員会メンバーの女性のエンパワーメントに関する知識の向上とファシリテーション能力の向上を目的とし、最終的には、委員会メンバーが各々のエリアで、女性のエンパワーメントに関するワークショップの講師となることを目的としている。

3) 女性の地位向上委員会メンバーによるワークショップの実施

上記でワークショップを受講した委員会メンバーが、各々のエリアで村民を動員し、女性のエンパワーメントを主題としたワークショップを実施した。これまでに6カ所で実施され、138名の村民が参加している(女性94名、男性44名)。ワークショップでは、委員会メンバーが講師となって、村民に女性のエンパワーメントに関して講義をするが、彼らの

	知識・ファシリテーション能力もまだ十分ではないため、上記 2) の講師が監督者として参加し、彼らを支援している。
(3) 達成された効果	各活動における実績及び達成度については、添付書類 (2) 活動実績一覧表も参照のこと。 (ア) 農業生産性の向上のためのエコサントイレの建設 ・エコサントイレが 36 基完成 (目標 55 基) し、2,359 名が利用を開始した。希望者全員 (教員・クラス代表学生の 77 名) がエコサントイレ及び有機農業に関する講習会を受講した。 (イ) 安全な水へのアクセスの確保 ・井戸管理委員会 (11 名) が活動を再開し、新たに委員 (2 名) を選出した。 ・井戸修繕後の井戸の維持管理方法や資金管理に関して協議を行い、事業運営改革に取り組んだ。 ・井戸の修繕は後半に予定している。 (ウ) 燃料資源の維持と使用量の削減 ・改良かまどのモデル基 4 基を建設し、学生を中心とした約 1,000 名に給食が提供されている。 ・モデル基を見学した住民からは、自宅に改良かまどを建設したいとの希望が寄せられている。今後、個人宅用の改良かまどのモデル基を製作し、希望宅に裨益者負担で改良かまどを建設していく予定にしている。 ・薪材植林は今フェーズ後半で実施予定。 (エ) 収入の向上 ・有用樹の配布は後半に予定している。 (オ) 女性の地位向上 ・水管理委員会の女性は 13 名中 4 名で比率は 30%、農畜産業委員会の女性は 20 名中 8 名で比率は 40%、かまど及び女性の地位向上委員会の女性は 20 名中 16 名で比率は 80% で構成した。
(4) 今後の見通し	事業の進捗に関しては概ね計画通りである。深井戸修繕に関しては申請書段階から 1 年以上の期間がすぎているため、再度設備・施設の検査など慎重に事業を実施する必要がある。フェーズ 1 後半ではこの活動をより強化して実施する。